

豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成22年度(2010年度)

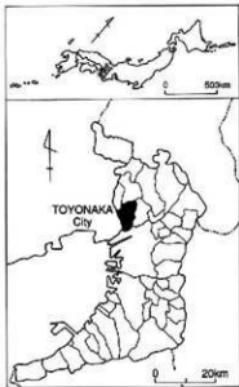
平成23年(2011年)3月

豊中市教育委員会



豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 22 年度（2010 年度）



平成 23 年（2011 年）3 月

豊中市教育委員会

序 文

豊中市は、大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県と接しています。千里丘陵にかつて広大な森林を控えたこの地は、神崎川や猪名川から常に豊かな水がもたらされ、古くから人々の生活の場が育まれてきた結果、多くの歴史的遺産が受け継がれてきました。その一方、商都大阪に隣接する関係により、早くから大阪北郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。近年になって開発の勢いは落ち着いてきたものの、土地利用の形態が変化してきたことを受けて小規模開発が急増し、住宅の老朽化に伴う建て替えも依然として多く、埋蔵文化財の保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性をふまえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。平成 22 年度に調査を実施した桜塚古墳群、および各遺跡における確認調査に加え、平成 21 年度後期に実施した調査成果も掲載しました。桜塚古墳群では新たな古墳が発見され、新免遺跡では古墳時代の集落跡が確認されるなど、新たな知見が得られました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、わたしたち現代に暮らす人間にとつても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来形成のために役立つことを願ってやみません。

調査の実施にあたっては、土地所有者、施工関係者、近隣の住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。また文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中市の文化財保護行政が推進できましたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成 23 年（2011 年）3 月 31 日

豊中市教育委員会
教育長 山元行博

例　　言

1. 本書は、平成 22 年度国庫補助事業（総額 7,000,000 円、国庫 50%、市費 50%）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また平成 21 年度国庫補助事業として実施した新免遺跡第 63 次調査と確認調査の成果も併せて収録した。
2. 平成 22 年度事業として、平成 22 年 4 月 5 日から平成 23 年 3 月 31 日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。
3. 発掘調査は、本市教育委員会地域教育振興課文化財保護係が実施した。
4. 本書のうち、第 I～Ⅲ 章は陣内が執筆した。また、第 IV 章は各調査担当者の見解をもとに、浅田が執筆した。なお、全体の編集を陣内が行なった。
5. 各挿図に掲載した方位表記のうち、M. N. は磁北、また表記のないものは国土座標系（第 VI 系）に基づく座標北を示す。
6. 挿図・本文中の土色表記の基準は、「新版標準土色帖 2010 年版」に基づく。
7. 挿図に掲載した出土遺物の縮尺は 1 : 3、または 1 : 2 とする。
8. 各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただきました。併せてここに明記し、深謝いたします。

本書掲載発掘調査一覧

遺跡名	次數	調査地	調査面積	担当者	調査期間
新免遺跡	第 63 次	豊中市玉川町 2 丁目 213-3	66 m ²	清水 篤	平成 21 年 11 月 30 日 ～ 12 月 25 日（21 年度事業）
桜塚古墳群	第 11 次	豊中市南桜塚 1 丁目 222-4 の一部	22 m ²	陣内 高志	平成 22 年 11 月 26 日 ～ 12 月 3 日

目 次

第Ⅰ章 位置と環境	(陣内)
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
第Ⅱ章 新免遺跡第63次調査	(陣内)
1. 調査の経緯	5
2. 調査の概要	6
(1) 遺跡の概要と既往の調査	6
(2) 基本層序	6
(3) 検出した遺構と遺物	6
3. まとめ	9
第Ⅲ章 桜塚古墳群第11次調査	(陣内)
1. 調査の経緯	11
2. 調査の概要	12
(1) 基本層序	12
(2) 検出した遺構	13
(3) 出土遺物	13
3. まとめ	14
第Ⅳ章 確認調査の成果	(浅田)
確認調査の概要	15

挿図・表目次

(第Ⅰ章 位置と環境)

第1図 市内遺跡分布図	2
第2図 調査地点と周辺の地形	4

(第Ⅱ章 新免遺跡第63次調査)

第3図 調査範囲図(1:150)	5
第4図 調査地位置図(1:5,000)	5
第5図 調査区平面・断面図(1:60)	7
第6図 穴住居1平面・断面図(1:40)	8
第7図 穴住居2平面・断面図(1:40)	8
第8図 遺構出土遺物(1:3)	9
第9図 その他出土遺物(1:3)	9

(第Ⅲ章 桜塚古墳群第11次調査)

第10図 調査範囲図(1:200)	11
第11図 調査地位置図(1:5,000)	11
第12図 調査区平面・断面図(1:40)	12
第13図 周溝断面図(1:40)	13
第14図 出土遺物(1:2)	13
第15図 周溝想定図(1:200)	14

(第Ⅳ章 確認調査の成果)

第1表 平成22年(2010年)確認調査一覧表	15
第16図 確認調査地点位置図	16
第17図 トレンチ掘削状況	17
第18図 トレンチ平面・断面図	17
第19図 トレンチ掘削状況	17
第20図 トレンチ断面図	17
第21図 トレンチ掘削状況	18
第22図 トレンチ断面図	18

第 23 図	トレンチ掘削状況	18
第 24 図	トレンチ断面図	18
第 25 図	トレンチ掘削状況	19
第 26 図	トレンチ断面図	19
第 27 図	トレンチ掘削状況	19
第 28 図	トレンチ断面図	19
第 29 図	トレンチ掘削状況	20
第 30 図	トレンチ断面図	20
第 31 図	トレンチ掘削状況	20
第 32 図	トレンチ断面図	20
第 33 図	トレンチ掘削状況	21
第 34 図	トレンチ平面・断面図	21
第 35 図	トレンチ掘削状況	21
第 36 図	トレンチ断面図	21
第 37 図	トレンチ掘削状況	22
第 38 図	トレンチ断面図	22
第 39 図	トレンチ掘削状況	22
第 40 図	トレンチ断面図	22
第 41 図	トレンチ掘削状況	23
第 42 図	トレンチ断面図	23
第 43 図	トレンチ掘削状況	23
第 44 図	トレンチ断面図	23
第 45 図	トレンチ掘削状況	24
第 46 図	トレンチ断面図	24
第 47 図	トレンチ掘削状況	24
第 48 図	トレンチ断面図	24
第 49 図	トレンチ掘削状況	25
第 50 図	トレンチ断面図	25
第 51 図	トレンチ掘削状況	25
第 52 図	トレンチ断面図	25
第 53 図	トレンチ掘削状況	26
第 54 図	トレンチ断面図	26
第 55 図	トレンチ掘削状況	26
第 56 図	トレンチ断面図	26
第 57 図	トレンチ掘削状況	27
第 58 図	トレンチ断面図	27
第 59 図	トレンチ掘削状況	27

第 60 図	トレンチ断面図	27
第 61 図	トレンチ掘削状況	28
第 62 図	トレンチ平面・断面図	28
第 63 図	トレンチ掘削状況	28
第 64 図	トレンチ平面・断面図	28
第 65 図	トレンチ掘削状況	29
第 66 図	トレンチ断面図	29
第 67 図	トレンチ掘削状況	29
第 68 図	トレンチ断面図	29
第 69 図	トレンチ掘削状況	30
第 70 図	トレンチ断面図	30
第 71 図	トレンチ掘削状況	30
第 72 図	トレンチ断面図	30
第 73 図	トレンチ掘削状況	31
第 74 図	トレンチ断面図	31
第 75 図	トレンチ掘削状況	31
第 76 図	トレンチ断面図	31
第 77 図	トレンチ掘削状況	32
第 78 図	トレンチ断面図	32
第 79 図	トレンチ掘削状況	32
第 80 図	トレンチ断面図	32
第 81 図	トレンチ掘削状況	33
第 82 図	トレンチ断面図	33
第 83 図	トレンチ掘削状況	33
第 84 図	トレンチ断面図	33
第 85 図	トレンチ掘削状況	34
第 86 図	トレンチ断面図	34
第 87 図	トレンチ掘削状況	34
第 88 図	トレンチ断面図	34
第 89 図	トレンチ掘削状況	35
第 90 図	トレンチ断面図	35
第 91 図	トレンチ掘削状況	35
第 92 図	トレンチ断面図	35
第 93 図	トレンチ掘削状況	36
第 94 図	トレンチ断面図	36
第 95 図	トレンチ掘削状況	36

第 96 図 トレンチ断面図	36
第 97 図 トレンチ掘削状況	37
第 98 図 トレンチ断面図	37
第 99 図 トレンチ掘削状況	37
第 100 図 トレンチ平面・断面図	37
第 101 図 トレンチ掘削状況	38
第 102 図 トレンチ断面図	38
第 103 図 トレンチ掘削状況	38
第 104 図 トレンチ断面図	38
第 105 図 トレンチ掘削状況	39
第 106 図 トレンチ断面図	39
第 107 図 トレンチ掘削状況	39
第 108 図 トレンチ断面図	39

図版目次

図版1 新免遺跡第63次調査

- (1) 調査区西部全景（北から）
- (2) 調査区東部全景（北西から）

図版2 新免遺跡第63次調査

- (1) 調査区北部全景（北東から）
- (2) 竪穴住居1断面（南から）

図版3 新免遺跡第63次調査

- (1) 竪穴住居2壁溝検出状況（北東から）
- (2) 竪穴住居2全景（北東から）

図版4 新免遺跡第63次調査

- (1) 竪穴住居2断面（南西から）
- (2) ピット5（竪穴住居1床面）

図版5 新免遺跡第63次調査

- (1) ピット12（竪穴住居2内）
- (2) ピット11（竪穴住居2内）

図版6 新免遺跡第63次調査 出土遺物

- (1) 遺構出土遺物
 - (1:十坑1、2:竪穴住居1上層、3・4:竪穴住居1下層)
- (2) その他出土遺物（重機掘削後精査時）

図版7 桜塚古墳群第11次調査

- (1) 調査区全景（北東から）
- (2) 古墳周溝全景（北から）

図版8 桜塚古墳群第11次調査

- (1) 占墳周溝断面（南西から）
- (2) 調査区基本層序（東壁面）

図版9 桜塚古墳群第11次調査 出土遺物

- (1) 周溝出土埴輪（左:外面、右:内面）
- (2) 採集埴輪（左:外面、右:内面）

第Ⅰ章 位置と環境

1. 地理的環境

豊中市は大阪市の北方に位置し、西は猪名川を介して兵庫県と接しており、旧国名では摂津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治43年箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）開通を契機に宅地化が進み、現在では市域面積37km²中に約39万人もの人口を擁する北摂最大の住宅都市へと発展している。ここに到った背景としては、大阪市近郊であることに加え、名神高速道路や阪神高速道路などの自動車専用道路や、阪急電鉄や北大阪急行、大阪モノレールによる電車網、さらには大阪国際空港に示される陸空交通による利便性の高さが挙げられよう。

一方、地形に目を転じると、豊中市は巨視的にみて北から南に向かって標高が徐々に低くなる穏やかな地形を呈しており、市内最高地点である鳥熊山（海拔約100m）から最も低い大島町付近（海拔1m以下）にかけての比高差はおよそ100mである。ここで地形的特徴を細かく区分していくと、おおよそ北部・中部・南部という三区分が可能であろう。北部一帯は千里丘陵と刀根山丘陵と呼ばれる2つの丘陵地からなる。千里丘陵は大阪層群でその名が知られている通りである。続いて中部一帯は主に千里丘陵から派生する中・低位段丘を中心とした通称豊中台地、最後に南部一帯は猪名川水系、天竺川、高川の沖積作用によって形成された平野部という見方ができる。

次章以下で報告する新免遺跡・桜塚古墳群はいずれも通称豊中台地と呼ばれる段丘上に立地する遺跡である。

2. 歴史的環境

ここでは今回報告する遺跡の動向を中心に述べていく。

新免遺跡 弥生～古墳時代の集落遺跡として知られる新免遺跡は、その範囲は東西900m、南北550mに及び、市内有数の広さを誇っている。この新免遺跡が誕生するのは弥生時代中期であり、勝部遺跡からの分村とみられている。一般に市域の弥生集落は弥生中期に低地から台地上に進出する傾向がうかがえ、新免遺跡は千里川流域の好例として知られる。

遺跡は弥生時代中期段階に盛期を迎える、多数の竪穴住居からなる居住域と方形周溝墓によって構成される墓域を有する拠点集落として知られる。弥生時代後期～同終末期、集落の勢いは中期段階に比べてやや劣るもののが依然市内では中心的な弥生集落であったとみられるが、古墳時代前期～中期中葉は一旦衰退したためか様相が不明瞭になる。その後、古墳時代中期後葉に再び盛期を迎えるが、その背景として桜井谷窯跡群の創業開始が挙げられる。

桜井谷窯跡群は古墳時代から奈良時代にわたって営まれた千里古窯址群の一角を構成し、最盛期である後期前半には陶邑窯跡群に匹敵するほどの生産量を誇ったともいわれている。当該時期の新免遺跡では、集落内から焼けひずんだり焼成不良分の須恵器が多数出土し、さらに土坑や溝状遺構のなかには大量の須恵器が集積された状態で確認されている。このことから古墳時代後半

2. 歷史的環境



1. 大阪駅西側跡	15. 豊能北(宮の前)遺跡	30. 西船橋遺跡	44. 鶴川西遺跡	58. 玉置寺遺跡	72. 小出町の遺跡
2. 和田井口町古墳群	16. 先生院遺跡	31. 瓦堀遺跡	45. 朝日山遺跡	59. 玉置寺遺跡	73. 上原庄遺跡
3. 利根遺跡	17. 東高円寺遺跡	32. 木ノ上遺跡	46. 新御所遺跡	60. 木ノ上遺跡	74. 有利山古墳群
4. 野瀬谷日町遺跡	18. 宝池遺跡	33. 桜島北遺跡	47. 五條城跡(北城)	61. 有利山遺跡	75. 上高井田遺跡
5. 少路遺跡	19. 麻生遺跡	34. 走井遺跡	48. 五條城跡(南城)	62. 有利山遺跡	76. 上加治河遺跡
6. 武藏野御前塚安須氏 坂井谷古墳群	20. 東刀削(高麗)遺跡	35. 阿門(北)遺跡	49. 五条遺跡	63. 有利山遺跡	77. 稲積ポンプ場遺跡
7. 楠井谷石留塚古墳	21. 須崎(古墳)	36. 阿門(南)遺跡	50. 熊毛東遺跡	64. 有利山遺跡	78. 烏田遺跡
8. 伊勢ヶ原兩面塚	22. 上野遺跡	37. 阿門(西)遺跡	51. 熊毛中町遺跡	65. 有利山の前遺跡	79. 内山遺跡
9. 佐野遺跡	23. 香南北(朝)遺跡	38. 佐野古墳群	52. 佐野(北)遺跡	66. 有利山の前遺跡	80. 仁江遺跡
10. 佐野(道)遺跡	24. 佐野(南)遺跡	39. 佐野古墳群	53. 佐野(北)遺跡	67. 佐野(南)遺跡	81. 木本遺跡
11. 丹波遺跡	25. 今寺(山)寺	40. 佐野古墳群	54. 佐野(北)遺跡	68. 朝倉村笠置	
12. 佐原遺跡	26. 新見山(古)遺跡	41. 佐野古墳群	55. 佐野(道)遺跡	69. 佐野(道)遺跡	
13. 北刀根山遺跡	27. 金刀山(廢寺跡)立石	42. 佐野(小)山	70. 春日大社古墳目代		
14. 坂井谷古墳群	28. 木村遺跡	43. 大坂城跡(扇形行支配 扇形跡)	71. 木之瀬遺跡		
	29. 新免遺跡		57. 若竹街遺跡		

第1図 市内遺跡分布図

期の新免遺跡は、同様の傾向がうかがえる本町遺跡とともに須恵器生産に関連する集落とみられ、主に桜井谷窯跡群で生産された須恵器の選別作業を担った集落と考えられている。

桜塚古墳群 古墳時代前期後半、豊中台地に突如出現する大石塚古墳、それに続く小石塚古墳は桜塚古墳群築造の開始を告げるものであった。同古墳群は明治に描かれた絵図（「壱目三拾六墳全國」など）や発掘調査成果により少なくとも40～50基の古墳から成っていたとみられるが、中世以降の耕地化ならびに宅地開発によって多くの古墳が消滅してしまい、現在は北部一帯に大石塚古墳、小石塚古墳、大塚古墳、御獅子塚古墳、南大平塚古墳の5基が現存するのみである。

上記の絵図や近年の調査によると、同古墳群は大まかに4群（西群・中央群・東群・南群）で構成され、古墳時代前期後半から古墳時代中期末あるいは後期初頭にまで及ぶことが判明している。なかでも中期は猪名川左岸を代表する古墳群として周知されている。特に大塚古墳、御獅子塚古墳の各主体部出土の中冓類は、その質的な特徴から当時の畿内政権中枢との密接な関連性がうかがえる。本書第Ⅲ章で報告する新発見の小規模古墳は、4群中最も動態が不明瞭であった南群に該当する。今回の古墳は、近年南群で発見された古墳と同様古墳時代後期前後の築造のものとみられ、桜塚古墳群の終焉を把握していくうえで基礎的な成果を提供してくれるものと期待される。

中期に隆盛を誇った桜塚古墳群も後期を迎えると衰退しやがて築造を停止する。古墳時代後期以降、千里川流域では4つの後期古墳群が新たに形成されるが、桜塚古墳群の衰退時期に登場する新免古墳群は、桜塚古墳群に後続する古墳群として注目されよう。新免古墳群は古墳時代の新免集落の南方に形成され、全長約25mの前方後円墳を代表とする総数10基に満たない小規模な古墳群である。同古墳群の被葬者は、桜井谷窯跡群における須恵器の生産活動を背景として誕生した豪族とみられている。



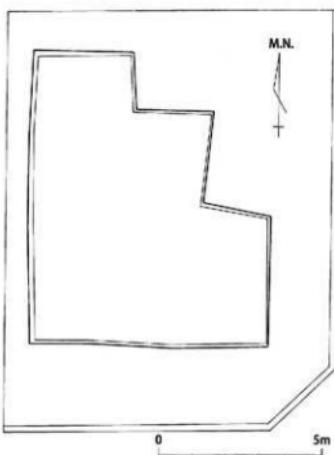
第2図 調査地点と周辺の地形

第Ⅱ章 新免遺跡第63次調査

1. 調査の経緯

当調査区は、豊中市玉井町2丁目213-3に所在する。平成21年10月14日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成21年10月22日に確認調査を行ったところ、地表下約35cmで古墳時代の遺構面を確認した。申請地では個人住宅の新築が予定されていたが、基礎工事が地表下40cmにまで達し、遺構面の損壊が免れないことが判明した。計画によれば基礎構造に変更の余地はなく、事業主ならびに代理者と協議を重ねた結果、本調査を実施する運びとなった。

本発掘調査は平成21年11月30日(月)から平成21年12月25日(金)の日程で実施し、調査対象面積は基礎工事により遺構面が損壊を受ける66m²とした。なお、廃土スペースの問題上、場内反転を実施する必要性が生じたため、調査区を南北二分割したうえで調査を実施した。



第3図 調査範囲図 (1:150)



第4図 調査地位置図 (1:5,000)

2. 調査の概要

(1) 遺跡の概要と既往の調査

新免遺跡は阪急宝塚線豊中駅の西～南西一帯の住宅地に広がる集落遺跡であり、東西約600m、南北約300mの規模を有する。これまでに62件の発掘調査が実施され、縄文時代から現代に至るまでの複合遺跡であることが判明している。遺跡の盛期は弥生時代中期～後期、古墳時代後期とみられ、なかでも弥生集落は多数の竪穴住居と方形周溝墓を検出しており市内有数の拠点集落として位置付けられている。しかしながら個人住宅新築工事を契機とする小面積の調査が多いことから、これらの点的成果を面的な成果へ結び付けることが困難であり、調査次数にも関わらず今なお遺跡の動態は不明瞭である。

今回の調査地は遺跡北端部に位置し、東接する本町遺跡との境界付近である。調査地周辺では過去の調査で主に弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴住居をはじめとする集落関連の遺構が多数確認されている。

(2) 基本層序

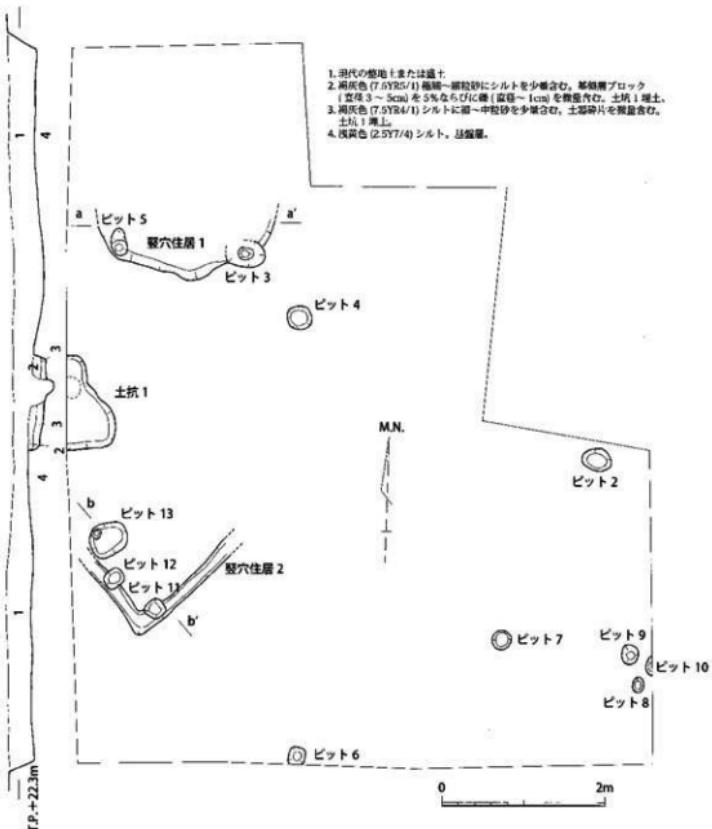
今回の調査区では既設建物の搅乱の影響が調査区のほぼ全域において遺物包含層にまで及んでいたため、盛土直下で基盤層（浅黄色シルト）に達するという状況であった。したがって、基本層序としては第1層が盛土、第2層は基盤層（浅黄色シルト）ということになる。今回の調査は盛土除去後、基盤層上面を精査し、これを遺構面として実施した。

(3) 検出した遺構と遺物

調査区は基本層序がほとんど残存しないという状況だったにもかかわらず、遺構面に至っては竪穴住居2基をはじめ上坑1基、ピット12基を確認することができた。ここでは基盤層上面における主な検出遺構について紹介する。

竪穴住居1 調査区北部で検出したが、搅乱の影響で確認できたのはその南端部分のみである（第6図）。残存部分の最大幅は2.2m、検出面からの深度は最大で約40cmをはかり、住居の平面形はピットと重複部分があるものの円形とみられる。台地上に立地する新免遺跡において、今回のように竪穴住居内の埋土が40cm近く堆積する事例は珍しく、近隣では第22次調査のSH-10が同様の事例として挙げられる。

竪穴住居1の埋土は上層・中層・下層の3層に区分可能であった。上層の褐灰色細粒砂～中粒砂は、当該住居廃絶後に堆積したと考えられる。中・下層の直上面は床面と考えられることから、当該住居は少なくとも2時期の居住面が存在したことがうかがえる。中層は新段階の床面に相当する。床面を構成する黒褐色シルトは、層中に細粒砂～中粒砂を多く含みつつ基盤層ブロックもわずかに含まれる。この中層直上面には、10cmほどの高低差がみとめられ、周囲にむかって徐々



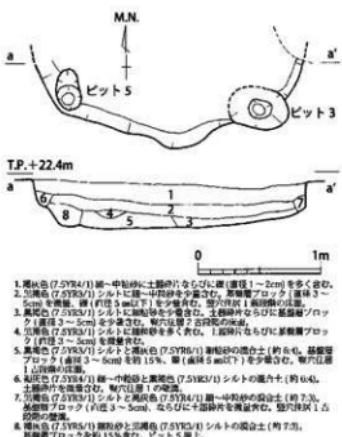
第5図 調査区平面・断面図 (1:60)

に高くなる傾向がうかがえる。その周囲には幅・深度ともに 10 ~ 15 cm の壁溝が巡る。続いて下層は古段階の床面に相当する。基本的に中層と類似した黒褐色シルトで構成されるが、基盤層ブロックが中層と比べ多く含まれる。下層直上でも中層同様に周囲の方が 10 cm 程レベルが高く、中層同様に壁溝を有する。下層直下で基底面すなわち基盤層上面に達するが、ここでは壁溝はみとめられなかった。居住面としての可能性は低いと考えられる。

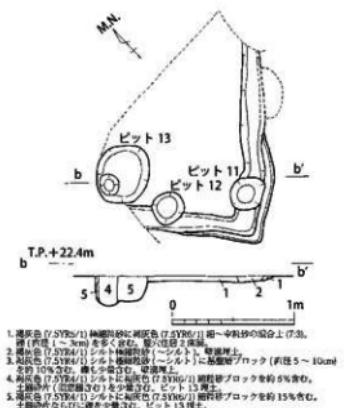
出土遺物のうち、図化し得たのは第8図 1・2・5・6である。2は上層出土の須恵器杯身である。口縁部端部が欠損するものの、形態的な特徴から6世紀前後の可能性が考えられる。5・6は弥生土器底部片、1は楕円形上器口縁部片であり、いずれも下層出土である。5の外面にはタタキ技法がみとめられる。6の底部外面には土器製作時に生じた圧痕がみとめられる。

当該住居埋土の形成時期については、上層は須恵器片を含むため古墳時代後期以降の堆積とみ

2. 調査の概要



第6図 穴住居1平面・断面図 (1:40)



第7図 穴住居2平面・断面図 (1:40)

生時代中期の可能性がある。なお、ピット 13 は図化遺物の他に須恵器片も出土しており、古墳時代後半期に帰属する。8 は壺形土器口縁部片である。3 条の凹線を施す。弥生時代中期後半に属する。

以上、穴住居 2 はその埋土中に須恵器片を含み、かつ調査区内の出土遺物を考慮すれば大まかに古墳時代後半期に営まれた住居であったと考えたい。

土坑 1 調査区西部、穴住居 1・2 に挟まれた位置で検出された。一部調査区外に伸びているため、土坑全体の形状は不明である。検出幅は最大で 1.15m、検出面から基底面までは約 20 cm

られる。続いて居住面を形成していた中層・下層は、それらの出土遺物が弥生土器で占められることから、当該住居の掘削時期ならびに居住期間（古段階・新段階）は弥生時代後期段階であったと判断したい。なお、今回出土遺物の制約により、古段階・新段階の各時期を明確にすることはできなかった。

ところで、下層の出土遺物中には微細ながら須恵器片が 1 点含まれていた。よって竪穴住居 1 は弥生時代ではないという可能性も出てくるが、これは今回、弥生時代と古墳時代の遺構埋土の識別が大変困難であったという事情を考慮すれば、本来住居埋土部分に存在した古墳時代の遺構を検出することができなかつたために起り得た事象と捉えたい。

竪穴住居 2 調査区南西部で検出された方形竪穴住居である（第 7 図）。竪穴住居 1 とは一転して残存状況が悪く、住居南部コーナー付近のみが残存していた。残存部分の観察によると、一辺 1.7m 以上の方形住居が考えられ、周間に壁溝を有する。住居検出面から基底面までの深度は 5 cm 程度にとどまる。壁溝の幅は 20~25 cm、深度は約 5 cm をはかる。住居内から 3 基のピットが検出されたが、うち 2 基は壁溝に重複しており同時期でない可能性もある。

出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器の各碎片であったが、図化可能だったのは第 8 図 3・7・8 である。3 の須恵器杯蓋は同住居内ピット 11 出土である。碎片のため直径の復元に疑問を残す。7 はピット 13 出土の壺形土器または壺形上器底部片である。内外面の調整は摩滅故に不明だが、復元底部直径は 7.5 cm に達し、その大きさからして弥生時代中期の可能性がある。

の深度を有する。竪穴住居の可能性もあったが、基底面上に柱穴や壁溝など住居関連の遺構が確認されず、現段階における上坑1の評価は不明である。

埋土は上下2層で構成される。上下層ともに竪穴住居埋土と類似した褐灰色系の土に基盤層ブロックが少量含まれる。なお、断面図は第8図を参照されたい。

出土遺物は第8図4であり、

菱形土器口縁部と考えられる。表面は摩滅しているため調整は観察できないが、形態的な特徴から弥生時代に帰属するとみられる。

土坑1は埋土中に須恵器を含まないことから弥生時代後期段階の遺構とみられる。

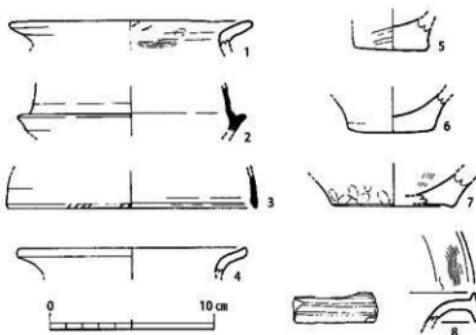
その他遺構 ピット2、ピット6～10など、調査区東部域で複数のピットが確認されており、これらは建物跡を構成する可能性がある。しかし、調査面積の制約により建物跡の抽出は困難であつた。

その他出土遺物 ここでは重機掘削後の遺構面

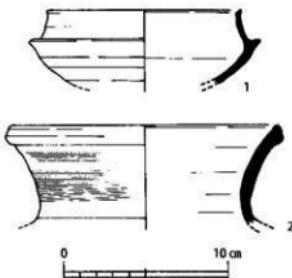
精査時に出土した遺物を紹介する（第9図）。これらは遺構出土でないが、残存状況が今回の出土遺物のなかでも良好であり、かつ遺跡の時期推定の一助になりうると考え掲載することにした。1は須恵器杯身である。口縁部の推定直径は11.6cm、残存高は4.5cmであった。口縁端部には比較的明瞭な凹線がみとめられる。6世紀初頭前後の所産とみられる。2は須恵器大甕の口縁部分とみられる。口縁部の推定直径は約16cm、残存高6cmをはかり、頸部外面にはカキ目が認められる。今回は碎片ゆえに図化した遺物はごくわずかであったが、それらの遺物の大半は弥生土器・土師器・須恵器の各碎片であった。

3.まとめ

今回の調査では弥生時代後期～古墳時代後期の集落関連遺構を検出し、当該時期集落の資料が追加されることになった。調査地周辺において主に弥生時代中期～終末期、古墳時代後期の集落が確認されており、今回検出の遺構はこれらと一連の集落を形成していたとみられる。また、限られた調査面積ならびに擾乱の影響を受けつつも前述の遺構数が残存していたということは、調



第8図 遺構出土遺物（1:3）



第9図 その他出土遺物（1:3）

3.まとめ

査地一帯は擾乱によって消滅した遺構を考慮すれば、本来はさらに濃密な遺構分布が想定される。

今回検出の遺構は主に弥生時代後期ならびに古墳時代後期段階の二時期であった。両時期ともに新免遺跡の盛行時期に該当する。ただし、最寄りの本発掘調査地である第44次調査（豊中市教育委員会 1997年）では弥生時代終末期～古墳時代前期の遺構と遺物が確認されていることや、第11次調査地（阪急宝塚線豊中市内連続立体交差遺跡調査団・豊中市教育委員会 1987）においても今回の調査地付近では弥生時代中期の堅穴住居が複数基確認されていることなど、調査地における遺構は本来は今回検出の二時期にとどまらない可能性が考えられる。今後も調査地周辺において宅地開発等に伴う確認調査ならびに発掘調査の実施が予想され、その調査の折りには既往の成果を考慮しつつ慎重に行っていく必要がある。

参考・引用文献

- ・阪急宝塚線豊中市内連続立体交差遺跡調査団・豊中市教育委員会
『新免遺跡－第11次発掘調査報告書－』 豊中市文化財調査報告第22集 1987年
- ・豊中市教育委員会「新免遺跡第19・21・22次調査」
『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 1987年度』 豊中市文化財調査報告第26集 1988年
- ・豊中市教育委員会「新免遺跡第44次調査」
『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成7(1995)年度－阪神淡路大震災復旧・復興事業に伴う発掘調査－』 豊中市文化財調査報告第40集 1997年

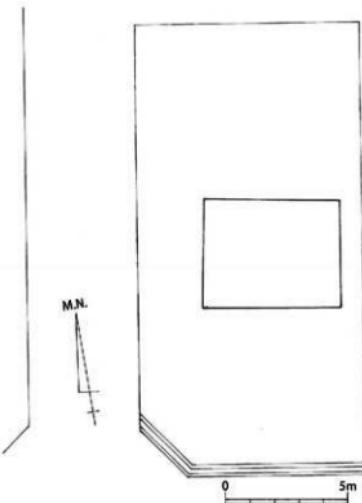
第三章 桜塚古墳群第11次調査

1. 調査の経緯

当調査区は、農中市南桜塚1丁目222-4の一帯に所在する。平成22年11月4日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成22年11月18日に確認調査を実施したところ、地表面において埴輪碎片を探集した。さらに申請地内を精査したところ、地表下数cmのところで基盤層を確認し、その上面において古墳周溝とみられる遺構を確認した。

申請地では個人住宅の新築が予定されているが、現行の計画では基礎掘削工事により遺構の破壊は免れないことが判明したため、事業主ならびに代理者と協議を行った結果、遺構が検出された範囲を対象として本発掘調査を実施することになった。

本発掘調査は平成22年11月26日(金)から平成22年12月3日(金)にかけて実施し、調査面積は22m²とした。

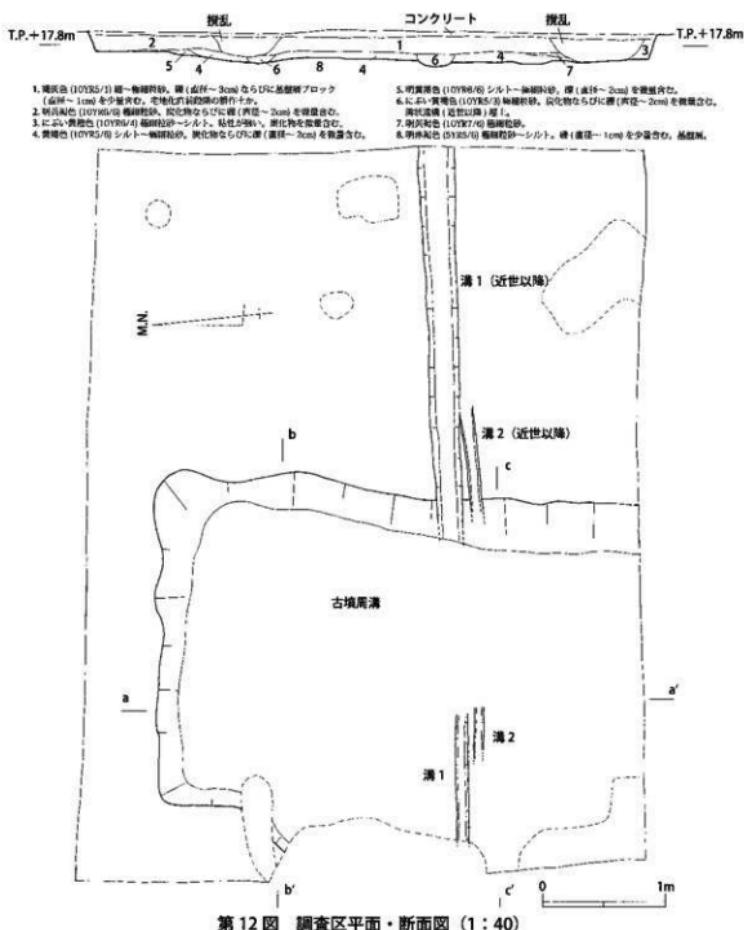


第10図 調査範囲図 (1:200)



第11図 調査地位置図 (1:5,000)

2. 発掘調査の成果



第12図 調査区平面・断面図 (1:40)

2. 調査の概要

(1) 基本層序

当調査区は確認調査時の所見によれば、地表面がほぼ基盤層上面に相当し、基本層序は残存しないとみられていた。ところが申請地内に削平を免れた部分がわずかに存在することが判明し、土層を観察したところ、以下の4層に区分可能であった。

地表面から基盤層にむけて順に記すと、第1層は現代の盛土であり、10～15cm堆積する。続いて第2層である明黄褐色または褐灰色極細粒砂（シルト）は旧耕作土とみられる。第3層は黄褐色シルトと第4層（基盤層）の混合土である。黄褐色シルトは今回無遺物であったが遺物包含層の可能性がある。最後に第4層の褐色シルトは非常に堅く締まった土層であり、当調査区における基盤層でもある。古墳周溝とみられる遺構は第4層上面において検出している。

（2）検出した遺構

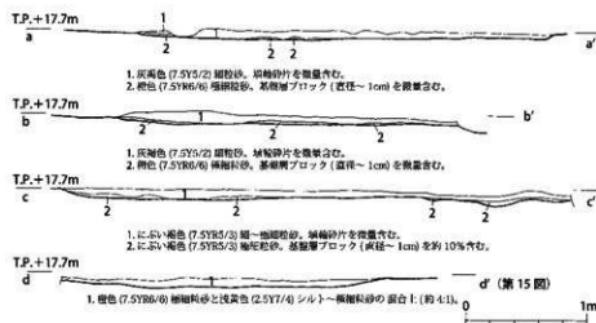
当調査区第4層（基盤層）上面からは溝状遺構2条、古墳周溝を検出したが、溝状遺構については調査の結果、近世以降に掘削されたことが判明したため、その報告を割愛する。

古墳周溝 調査区西半部で検出した浅い落ち込み状の遺構であるが、埴輪碎片が出たことから古墳周溝と判断した。但し、従前の構築物等による削平が顕著であったため、埴丘部分はすでに消滅しており周溝の残存状況は非常に悪く、深度は深いところでも約6cmである。したがって、今回は周溝底面付近のみがかろうじて残存したものと考えられる。周溝の断面は底面に向かってゆるやかに下がっていき、同中央部はほぼ平坦な底面を形成する。周溝は一見すると南北方向の掘削にみえるが、調査区西壁付近を注視すると周溝の向きが南西方向に変わって調査区外へ伸びていく部分がみられるなど、今回の限られた調査範囲で周溝の規模ならびに周溝に伴って造られた埴丘の形態と規模を特定することは困難であった。

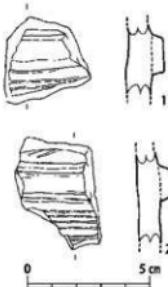
埴土は堅く締まった褐灰色砂質シルト層の單一層である。埴輪は周溝東半分において出土したが、これも残存状況は悪く、表面が摩滅したものが大半であった。

（3）出土遺物

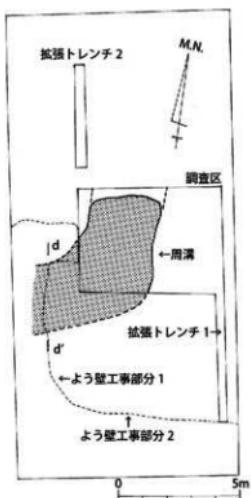
第14図1は申請地内における採集資料であるが、古墳周溝から近接した位置での採集であり、周溝出土の埴輪と形態的な特徴が類似するため、本来当該周溝に帰属する可能性が非常に高いと判断される。しかも残存状況が良好であるため出土遺物として掲載することにした。残存長4cm



第13図 周溝断面図 (1:40)



第14図 出土遺物 (1:2)



第15図 周溝想定図(1:200)

地一帯における発掘調査の一助にしたい。

今回の申請地では地表面と基盤層上面がほぼ同じレベルであった。このことが幸いし、臨時に調査区外に拡張トレンチを設け、周溝の広がり具合を観察することができた。その結果を示した図が第15図であり、2本の拡張トレンチ、ならびに基盤層断面が露出し断面観察が容易であった擁壁工事部分(2か所)の計4か所をもって周溝の有無を確かめた。古墳周溝が認められたのは擁壁工事部分1のみであり、他の3か所では認められなかった。上述の観察結果を考慮しつつ想定される古墳周溝は、スクリーントーン部分にみられる範囲ということになる。今回の調査ではかつてここに所在した古墳の南東部分が確認され、すでに消滅している墳丘部分は西側の南北道路上に位置すると考えられる。ただし、古墳周溝や墳丘の規模、円墳あるいは方墳など墳形の区別は明らかにできなかった。それでも、出土埴輪から大まかな時期が推定でき、何よりも従来全く知見がなかった古墳が発見され、このことが特に桜塚古墳群南群の動態解明に向けて一步前進したことが大きな成果であったと考える。

をはかり、断面台形のタガを有する。外面はタガ付近に横方向ならびに斜め方向のハケ目がかろうじて観察できる。横方向のハケ目の種類は不明である。

2は周溝内出土の埴輪碎片であり、1と同様に外面に断面台形のタガを有する。外面には横方向のハケ目がみとめられる。横方向のハケ目の種類は不明である。

1・2はタガの形態などから川西宏幸氏による円筒埴輪編年IV期に該当し、古墳時代中期後葉につくられた埴輪とみられる。したがって古墳の築造時期も同様の時期と考えられる。

3.まとめ

今回の調査で新規の古墳周溝が確認されたことにより、桜塚古墳群内に5世紀後半頃築造とみられる古墳が1基追加されることになった。とはいって、残存状況は決して良好でなく、今回の調査範囲から当該古墳の詳細なデータを抽出することは困難であった。それでも調査成果から想定されうる周溝の形態について考察し、今後の隣接

第IV章 確認調査の成果

昨年度1月から3月および今年度4月から12月の間に個人住宅を対象に行なった確認調査は、46件を数え、昨年度11件、今年度35件という内訳である。このうち、7件の調査で遺構等が確認されたが、建物に伴う基礎掘削が遺構面に達しないことや建物基礎部分の設計変更などから、本格的な発掘調査を行なうには至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第16図に掲載した調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

第1表 平成22年(2010年)確認調査一覧表

番号	地名	所在地	測量口	測量原点	面積(m ²)	測量の回数	調査後の状況	担当者	備考
1	木町道路	木町4丁目126-5	20100114	個人住宅建設	62.59	有	坑壁工事	専内	基礎浅
2	桜塚古墳群	南郷町1丁目245.5の一部	20100114	個人住宅建設	49.68	無	着工	専内	
3	桜塚古墳群	南郷町1丁目245-3	20100114	個人住宅建設	57.22	無	着工	専内	
4	桜井谷古墳群	貴人町2丁目34	20100121	個人住宅建設	74.53	無	着工	専内	
5	木町道路	木町2丁目143-7	20100124	個人住宅建設	55.57	無	着工	専内	
6	桜塚古墳群	愛媛県東1丁目90-2	20100128	個人住宅建設	55.48	無	着工	専内	
7	山ノ上道路	今山町35-10	20100225	個人住宅建設	43.06	無	着工	専外	
8	桜塚古墳群	南郷町3丁目102	20100225	個人住宅建設	110.19	無	着工	専外	
9	木町道路	木町4丁目69-370.3	20100311	個人住宅建設	40.13	有	再立会後、着工	専外	設計変更
10	桜塚古墳群	岡町南1丁目91-1	20100331	個人住宅建設	125.07	無	着工	専内	
11	山ノ上道路	山ノ上町97-197-2	20100333	個人住宅建設	55.73	有	坑壁工事	専内	基礎浅
12	庄内道路	庄内町4丁目65-13の一部	20100415	個人住宅建設	55.76	無	着工	専内	
13	桜塚古墳群	南郷町1丁目245-1	20100428	個人住宅建設	53.37	無	着工	専外	
14	桜塚古墳群	南郷町1丁目245.9	20100513	個人住宅建設	59.6	無	着工	専内	
15	桜塚古墳群	南郷町1丁目245-7	20100513	個人住宅建設	60.0	無	着工	専内	
16	人頭塚古墳群	永楽莊3丁目29-2	20100527	個人住宅建設	74.05	未確認	着工	専外 個土内	
17	山ノ上道路	庄内町60	20100527	個人住宅建設	51.03	無	着工	専内	
18	小内道路	庄内町4丁目50-1の一部	20100603	個人住宅建設	41.68	無	着工	専内	
19	桃枝道路	福島町1丁目198-17の一部	20100610	個人住宅建設	60.35	無	着工	専内	
20	桜塚古墳群	南郷町1丁目132の一部	20100610	個人住宅建設	59.13	無	着工	専内	
21	桜井谷古墳群	桜の町6丁目55の一部	20100617	個人住宅建設	90.30	未確認	着工	専内 個土内	
22	桜塚古墳群・西町道路	西町13	20100617	個人住宅建設	70.52	無	着工	専内	
23	桜塚古墳群	南郷町1丁目245-11	20100624	個人住宅建設	58.31	有	坑壁工事	専外	設計変更
24	新光道路	新光町1丁目112-10	20100702	個人住宅建設	47.20	有	着工	専外	江口(工)代牧野以降
25	利倉南道路	利倉3丁目113-4	20100708	個人住宅建設	101.38	無	着工	専内	
26	野村森口古墳群	南郷町3丁目9.2	20100708	個人住宅建設	58.03	無	着工	専内	
27	桜井谷古墳群	北里中町1丁目60-48	20100715	個人住宅建設	75.35	無	着工	専内	
28	桜塚古墳群	南郷町1丁目146の一部	20100722	個人住宅建設	73.75	無	着工	専外	
29	桜塚古墳群	南郷町1丁目2-2	20100722	個人住宅建設	50.61	無	着工	専外	
30	上底室防除	中底室5丁目1167-1167-17-17-19	20100916	個人住宅建設	27.77	無	着工	専内	
31	桃枝道路	福島町3丁目1435-1	20100930	個人住宅建設	76.40	無	着工	専内	
32	桜塚古墳群	賀茂町2丁目2-1	20100930	個人住宅建設	43.59	無	着工	専外	
33	上底室防除	上底室2丁目216の一部ほか	20101014	(個人宅)-中底室建設	152.17	無	着工	専内	
34	上津崎道路	上津崎2丁目135-26,135-47	20101014	個人住宅建設	73.68	有	再立会後、復旧工事	専内	
35	桜塚古墳群	賀茂町1丁目2-2	20101028	個人住宅建設	59.89	無	着工	専内	
36	桜塚古墳群	南郷町1丁目37-4	20101028	個人住宅建設	71.53	無	着工	専内	
37	太鼓塚古墳群	永楽莊2丁目292の一部	20101028	個人住宅建設	60.98	無	着工	専内	
38	野村森口古墳群	香川町4丁目78-32	20101028	個人住宅建設	61.30	無	着工	専内	
39	下底室防除	南郷町4丁目103-1	20101104	個人住宅建設	53.23	無	着工	専内	
40	新光道路	五月町1丁目129	20101104	個人住宅建設	99.50	無	着工	専内	
41	桜井谷古墳群	豊前町1丁目2-4	20101111	個人住宅建設	39.28	無	着工	専内	
42	新光道路	五月町3丁目28-2	20101118	個人住宅建設	68.37	有	再立会後、復旧工事	専内	基礎浅
43	桜塚古墳群	南郷町2丁目78-2	20101215	個人住宅建設	57.22	無	着工	専内	
44	小内道路	武1丁目330-12	20101202	個人住宅建設	53.95	無	着工	専内	
45	新光道路	五月町3丁目74-2	20101209	個人住宅建設	62.52	無	着工	専内	
46	桜塚古墳群・岡町北道路	岡町北3丁目109-110の一部	20101216	個人住宅建設	43.24	無	着工	専内	



第16図 確認調査地点位置図

2010-01 本町遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）1 月 14 日

調査場所：豊中市本町 4 丁目 126-5

調査対象面積：62.59 m²

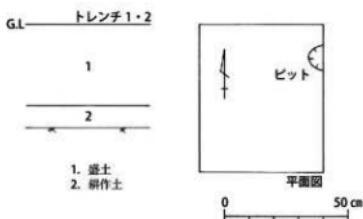
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 42 cm において基盤層を検出し、遺構（ピット 1 基）を確認した。

調査後の処置：建物に伴う基礎掘削は盛土内に収まるため、慎重工事を指示。



第 17 図 トレンチ掘削状況



第 18 図 トレンチ平面・断面図

2010-02 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）1 月 14 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目

245-5 の一部

調査対象面積：49.68 m²

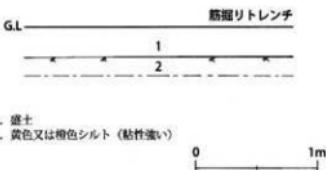
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 25 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 19 図 トレンチ掘削状況



第 20 図 トレンチ断面図

2010-03 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）1 月 14 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 245-3

調査対象面積：57.22 m²

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 20 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 21 図 トレンチ掘削状況



第 22 図 トレンチ断面図

2010-04 桜井谷窯跡群

調査日：平成 22 年（2010 年）1 月 21 日

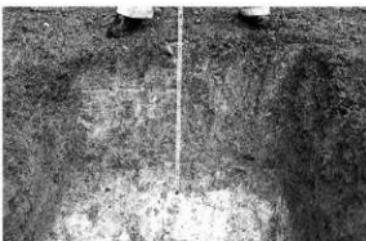
調査場所：豊中市宮山町 2 丁目 34

調査対象面積：74.53 m²

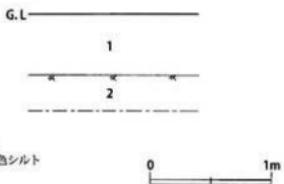
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50 cm において基盤層を検出したが、窯跡に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 23 図 トレンチ掘削状況



第 24 図 トレンチ断面図

2010-05 本町遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）1 月 28 日

調査場所：豊中市本町 2 丁目 143-7

調査対象面積：55.57 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

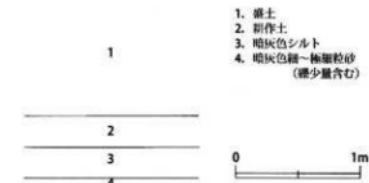
調査の概要：掘削深度（地表下 170 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 25 図 トレンチ掘削状況

GL—



第 26 図 トレンチ断面図

2010-06 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）1 月 28 日

調査場所：豊中市曾根東町 1 丁目 90-2

調査対象面積：55.48 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

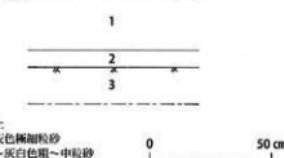
調査の概要：地表下 30 ~ 35 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 27 図 トレンチ掘削状況

GL— トレンチ 1・2



第 28 図 トレンチ断面図

2010-07 山ノ上遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）2月 25 日

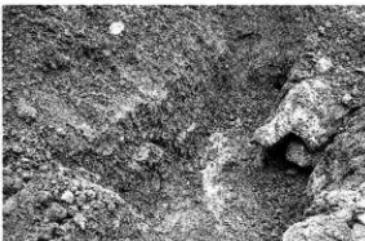
調査場所：豊中市宝山町 35-10

調査対象面積：43.06 m²

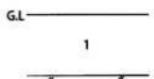
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：既設建物の基礎により旧地形は著しく削平されており、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 29 図 トレンチ掘削状況



第 30 図 トレンチ断面図

2010-08 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）2月 25 日

調査場所：豊中市南桜塚 3 丁目 102

調査対象面積：110.19 m²

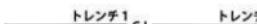
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：既設建物の基礎により旧地形は著しく削平されており、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 31 図 トレンチ掘削状況



第 32 図 トレンチ断面図

2010-09 本町遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）3 月 11 日

調査場所：豊中市本町 4 丁目 69-3、70-3

調査対象面積：40.13 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50 cm において基盤層を検出し、その上面で柱穴 2 基を確認した。

調査後の処置：設計変更により遺構の損壊は免れることから、再立会後に着工を指示。

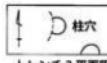


第 33 図 トレンチ掘削状況

GL ————— トレンチ 1・2

1

— 2 —



トレンチ 2 平面図

1. 盛土

2. 耕作土

0

1m

第 34 図 トレンチ平面・断面図

2010-10 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）3 月 31 日

調査場所：豊中市岡町南 1 丁目 91、91-1

調査対象面積：125.07 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 60 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 35 図 トレンチ掘削状況

GL ————— トレンチ 1・2

1

— 2 —

1. 盛土
2. 棕色板細粒砂
(直径～2cm)の膠少量混

0

50 cm

第 36 図 トレンチ断面図

2010-11 山ノ上遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）3 月 31 日

調査場所：豊中市山ノ上町 97、97-1.2

調査対象面積：55.73 m²

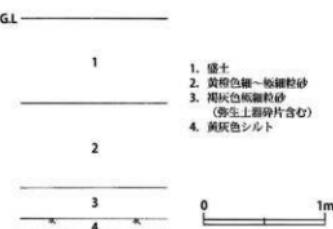
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 140 cm において弥生土器の包含層を、地表下 165 cm において基盤層を検出したが、遺構は確認されなかった。

調査後の処置：基礎は盛土内に収まることから、着工を指示。



第 37 図 トレンチ掘削状況



第 38 図 トレンチ断面図

2010-12 庄内遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）4 月 15 日

調査場所：豊中市庄内幸町 4 丁目

65-13 の一部

調査対象面積：55.76 m²

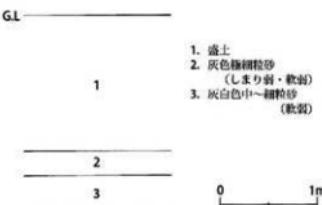
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 200 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 39 図 トレンチ掘削状況



第 40 図 トレンチ断面図

2010-13 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）4 月 28 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 245-1

調査対象面積：53.37 m²

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 15 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 41 図 トレンチ掘削状況



第 42 図 トレンチ断面図

2010-14 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）5 月 13 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 245-9

調査対象面積：59.6 m²

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 25 cm において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 43 図 トレンチ掘削状況



第 44 図 トレンチ断面図

2010-15 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）5 月 13 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 245-7

調査対象面積：60 m²

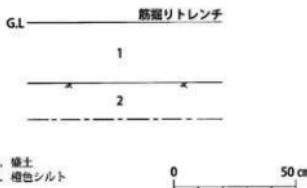
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 25～35 cm において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 45 図 トレンチ掘削状況



第 46 図 トレンチ断面図

2010-16 太鼓塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）5 月 27 日

調査場所：豊中市永楽荘 3 丁目 29-2

調査対象面積：74.05 m²

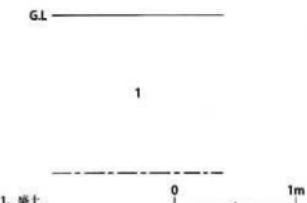
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 130 cm まで盛土であることを見認めた。

調査後の処置：ボーリングデータにより地表下 500 cm まで盛土であることが判明しており、基礎が盛土内に収まることから、着工を指示。



第 47 図 トレンチ掘削状況



第 48 図 トレンチ断面図

2010-17 山ノ上遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）5 月 27 日

調査場所：豊中市宝山町 60

調査対象面積：51.03 m²

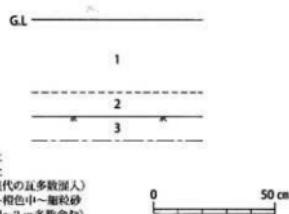
調査の方法：重機によりトレント 1 か所を掘削し、トレント内を精査した。

調査の概要：地表下 40 cm において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 49 図 トレント掘削状況



第 50 図 トレント断面図

2010-18 庄内遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）6 月 3 日

調査場所：豊中市庄内西町 4 丁目

59-1 の一部

調査対象面積：41.68 m²

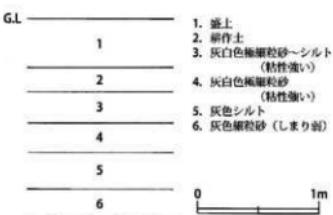
調査の方法：重機によりトレント 1 か所を掘削し、トレント内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 165 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 51 図 トレント掘削状況



第 52 図 トレント断面図

2010-19 穂積遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）6 月 10 日

調査場所：豊中市服部豊町 1 丁目

198-17 の一部

調査対象面積：60.35 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 215 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 53 図 トレンチ掘削状況



第 54 図 トレンチ断面図

2010-20 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）6 月 10 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 132 の一部

調査対象面積：59.13 m²

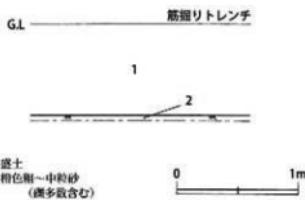
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 75 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 55 図 トレンチ掘削状況



第 56 図 トレンチ断面図

2010-21 桜井谷窯跡群

調査日：平成 22 年（2010 年）6 月 17 日

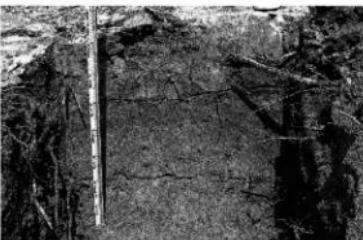
調査場所：豊中市桜の町 6 丁目 55 の一部

調査対象面積：90.3 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 70 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 57 図 トレンチ掘削状況



第 58 図 トレンチ断面図

2010-22 桜塚古墳群・岡町遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）6 月 17 日

調査場所：豊中市岡町 13

調査対象面積：70.52 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 80 cm において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 59 図 トレンチ掘削状況



第 60 図 トレンチ断面図

2010-23 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）6 月 24 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 245-11

調査対象面積：56.31 m²

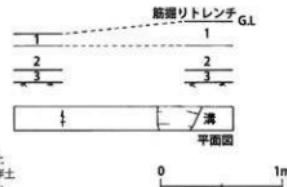
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40～50 cmにおいて基盤層を検出し、その上面で溝 1 条を確認した。

調査後の処置：建物の基礎掘削深度の変更により遺構の損壊は免れることから、慎重工事を指示。



第 61 図 トレンチ掘削状況



第 62 図 トレンチ平面・断面図

2010-24 穂積遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）7 月 2 日

調査場所：豊中市服部元町 1 丁目 112-10

調査対象面積：47.2 m²

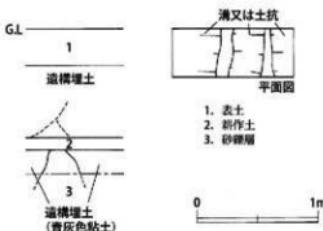
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 30～100 cmにおいて、遺構面を確認した。

調査後の処置：近世以降の遺構であることから、着工を指示。



第 63 図 トレンチ掘削状況



第 64 図 トレンチ平面・断面図

2010-25 利倉南遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）7 月 8 日

調査場所：豊中市利倉 3 丁目 113-4

調査対象面積：101.38 m²

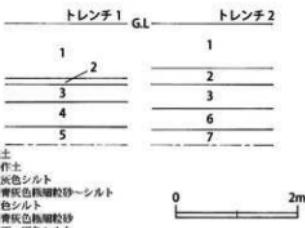
調査の方法：重機によりトレンチ 2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 200 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 65 図 トレンチ掘削状況



第 66 図 トレンチ断面図

2010-26 野畠春日町古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）7 月 8 日

調査場所：豊中市春日町 3 丁目 9-2

調査対象面積：56.03 m²

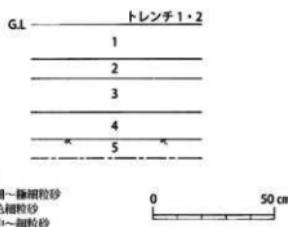
調査の方法：重機によりトレンチ 2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 47 cm において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 67 図 トレンチ掘削状況



第 68 図 トレンチ断面図

2010-27 桜井谷窯跡群

調査日：平成 22 年（2010 年）7 月 15 日

調査場所：豊中市東豊中町 1 丁目 60-48

調査対象面積：75.35 m²

調査の方法：重機によりトレーニング 2 か所を掘削し、トレーニング内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 30 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 69 図 トレーニング掘削状況

G.L トレーニング 1・2

1

1. 表土

0

50 cm

第 70 図 トレーニング断面図

2010-28 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）7 月 22 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 146 の一部

調査対象面積：75.75 m²

調査の方法：重機によりトレーニング 2 か所を掘削し、トレーニング内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 15 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 71 図 トレーニング掘削状況

G.L トレーニング 1・2

1

1. 表土

0

50 cm

第 72 図 トレーニング断面図

2010-29 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）7 月 22 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 146 の一部

調査対象面積：50.61 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 15 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 73 図 トレンチ掘削状況

GL ————— トレンチ 1・2
1
— * — * —

1. 表土 0 50 cm

第 74 図 トレンチ断面図

2010-30 下原窯跡群

調査日：平成 22 年（2010 年）9 月 16 日

調査場所：豊中市中桜塚 5 丁目 167-1, 117, 19

調査対象面積：27.77 m²

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 60 ~ 65 cm において基盤層を検出したが、窯跡に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 75 図 トレンチ掘削状況

GL ————— 路掘りトレンチ

1
— * — 2 — * —

1. 表土
2. 橙色細粒粘土
0 1m

第 76 図 トレンチ断面図

2010-31 穂積遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）9 月 30 日

調査場所：豊中市服部西町 3 丁目 1435-1

調査対象面積：76.4 m²

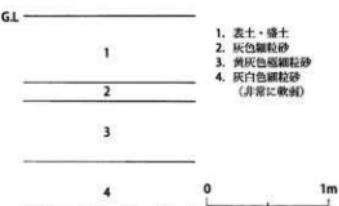
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 160 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 77 図 トレンチ掘削状況



第 78 図 トレンチ断面図

2010-32 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）9 月 30 日

調査場所：豊中市曾根東町 1 丁目 2-1

調査対象面積：43.59 m²

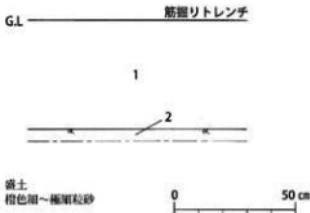
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 45 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 79 図 トレンチ掘削状況



第 80 図 トレンチ断面図

2010-33 上津島遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）10 月 14 日

調査場所：豊中市上津島 2 丁目 216 の一部他

調査対象面積：152.17 m²

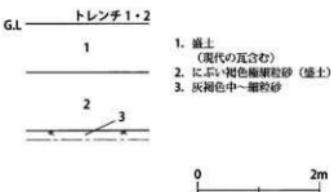
調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 195 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 81 図 トレンチ掘削状況



第 82 図 トレンチ断面図

2010-34 上津島遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）10 月 14 日

調査場所：豊中市上津島 2 丁目 135-26.47

調査対象面積：73.68 m²

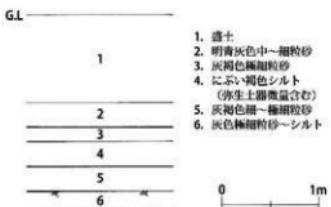
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 115 ~ 180 cmにおいて遺物包含層を検出したが、明確な遺構は確認されなかった。

調査後の処置：再立会後、慎重工事を指示。



第 83 図 トレンチ掘削状況



第 84 図 トレンチ断面図

2010-35 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）10 月 21 日

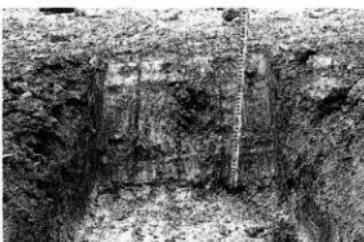
調査場所：豊中市曾根東町 1 丁目 2-2

調査対象面積：59.89 m²

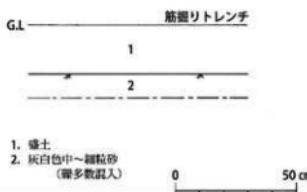
調査の方法：重機により筋振りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 20 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 85 図 トレンチ掘削状況



第 86 図 トレンチ断面図

2010-36 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）10 月 21 日

調査場所：豊中市南桜塚 1 丁目 37-4

調査対象面積：71.53 m²

調査の方法：重機により筋振りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 25 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 87 図 トレンチ掘削状況



第 88 図 トレンチ断面図

2010-37 太鼓塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）10 月 28 日

調査場所：豊中市永楽荘 2 丁目 292 の一部

調査対象面積：60.86 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

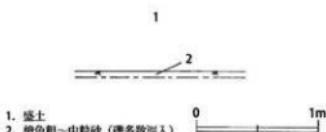
調査の概要：地表下 90 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 89 図 トレンチ掘削状況

GL _____



第 90 図 トレンチ断面図

2010-38 野畠春日町古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）10 月 28 日

調査場所：豊中市春日町 4 丁目 78-32

調査対象面積：61.3 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

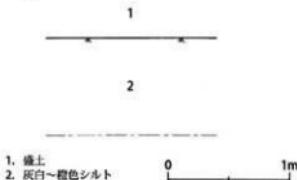
調査の概要：地表下 40 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 91 図 トレンチ掘削状況

GL _____



第 92 図 トレンチ断面図

2010-39 下原窯跡群

調査日：平成 22 年（2010 年）11 月 4 日

調査場所：豊中市南桜塚 4 丁目 103-1

調査対象面積：53.23 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 210 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 93 図 トレンチ掘削状況



第 94 図 トレンチ断面図

2010-40 新免遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）11 月 4 日

調査場所：豊中市玉井町 1 丁目 129

調査対象面積：99.5 m²

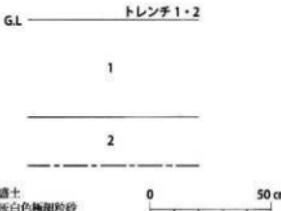
調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 40 ~ 50 cm において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 95 図 トレンチ掘削状況



第 96 図 トレンチ断面図

2010-41 横塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）11 月 11 日

調査場所：豊中市曾根東町 1 丁目 2-4

調査対象面積：39.26 m²

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 50 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 97 図 トレンチ掘削状況



第 98 図 トレンチ断面図

2010-42 新免遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）11 月 18 日

調査場所：豊中市玉井町 3 丁目 28、28-2

調査対象面積：68.37 m²

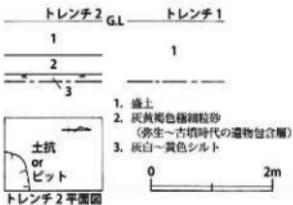
調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ 2 において地表下 53 cm で残存が良好な遺物包含層を、地表下 85 cm で基盤層と明確な遺構を確認した。

調査後の処置：基礎掘削深度は盛土内に収まることから、再立会後、慎重工事を指示。



第 99 図 トレンチ掘削状況



第 100 図 トレンチ平面・断面図

2010-43 桜塚古墳群

調査日：平成 22 年（2010 年）11 月 25 日

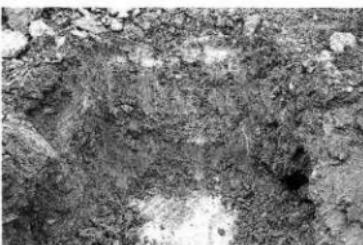
調査場所：豊中市南桜塚 2 丁目 76-2

調査対象面積：57.22 m²

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 55 cm において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 101 図 トレンチ掘削状況

G.L 一 距離リトレンチ

1

— * — 2 — * —
1. 遺土
2. 灰白色シルト
0 50 cm

第 102 図 トレンチ断面図

2010-44 小曾根遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）12 月 2 日

調査場所：豊中市浜 1 丁目 330-12

調査対象面積：53.95 m²

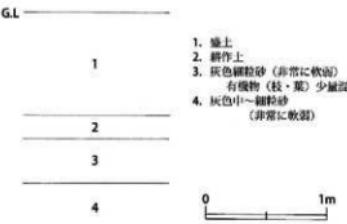
調査の方法：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下 180 cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 103 図 トレンチ掘削状況



第 104 図 トレンチ断面図

2010-45 新免遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）12 月 9 日

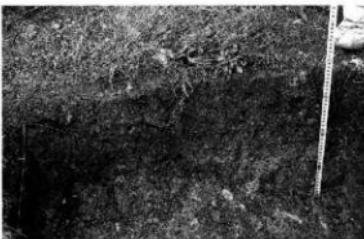
調査場所：豊中市玉井町 3 丁目 74-2

調査対象面積：62.52 m²

調査の方法：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 35 cm において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第 105 図 トレンチ掘削状況



第 106 図 トレンチ断面図

2010-46 桜塚古墳群・岡町北遺跡

調査日：平成 22 年（2010 年）12 月 16 日

調査場所：豊中市岡町北 3 丁目

109・110 の各一部

調査対象面積：43.24 m²

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下 25 cm において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



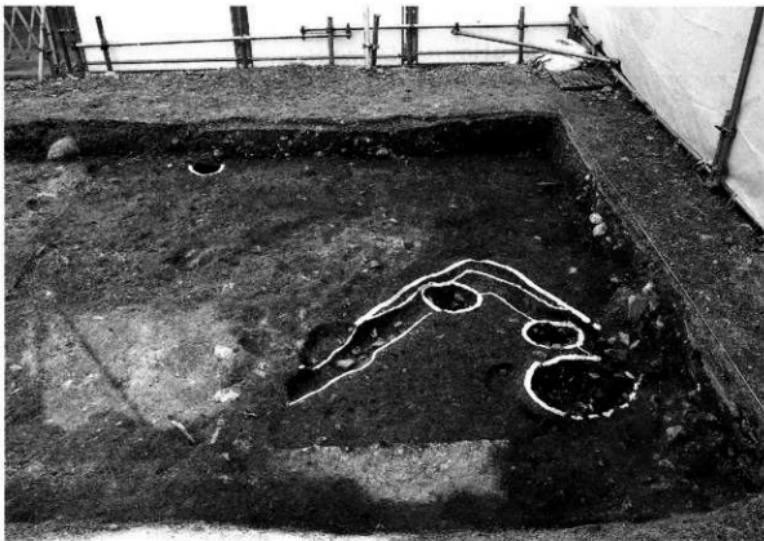
第 107 図 トレンチ掘削状況



第 108 図 トレンチ断面図

写 真 図 版

図版1 新免遺跡第63次調査



(1) 調査区西部全景（北から）

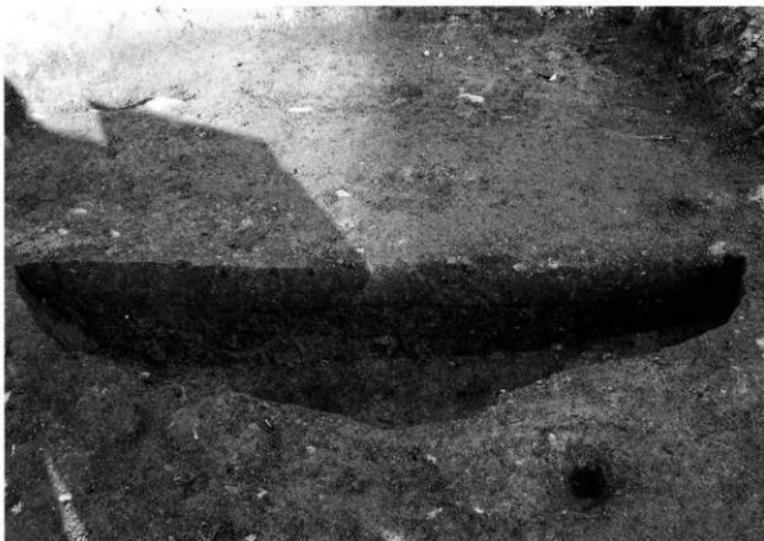


(2) 調査区東部全景（北西から）

図版2 新免遺跡第63次調査



(1) 調査区北部全景（北東から）



(2) 穹穴住居1断面（南から）

図版3 新免遺跡第63次調査

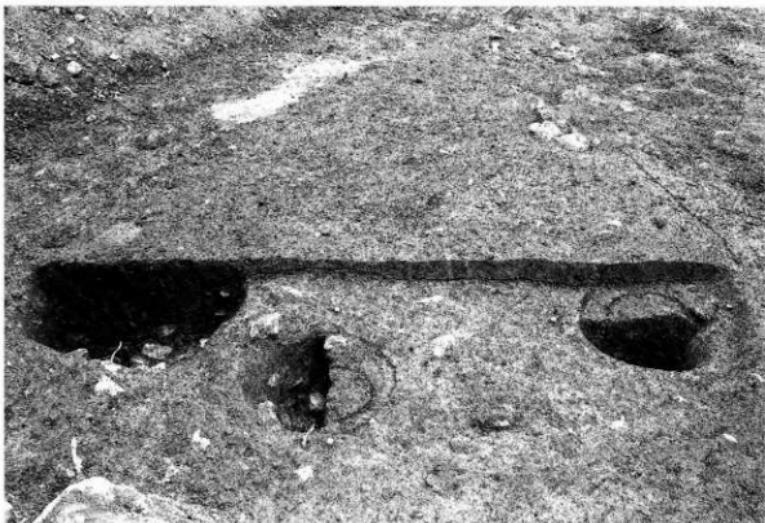


(1) 穫穴住居2壁溝検出状況（北東から）



(2) 穫穴住居2全景（北東から）

図版 4 新免遺跡第 63 次調査



(1) 竪穴住居 2 断面（南西から）

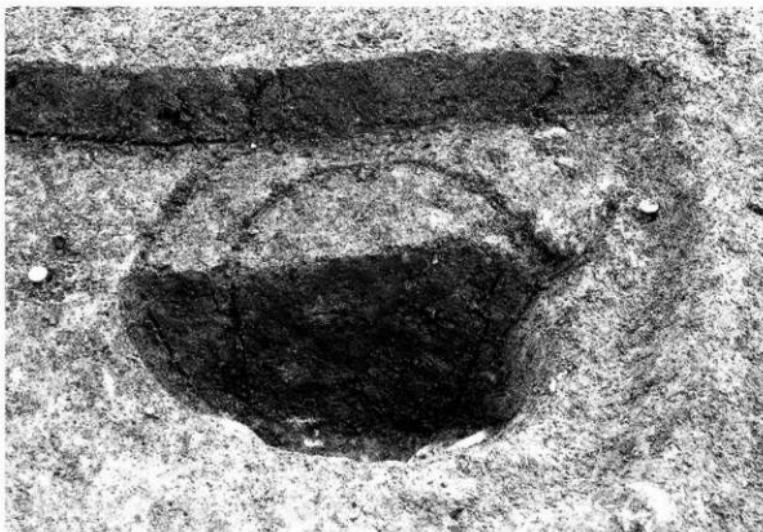


(2) ピット 5（竪穴住居 1 床面）

図版 5 新免遺跡第 63 次調査



(1) ピット 12 (竪穴住居 2 内)



(2) ピット 11 (竪穴住居 2 内)

図版6 新免遺跡第63次調査 出土遺物



1 (第8図1)



2 (第8図2)



3 (第8図5)



4 (第8図6)

(1) 造構出土遺物 (1:土坑1、2:竪穴住居1上層、3・4:竪穴住居1下層)



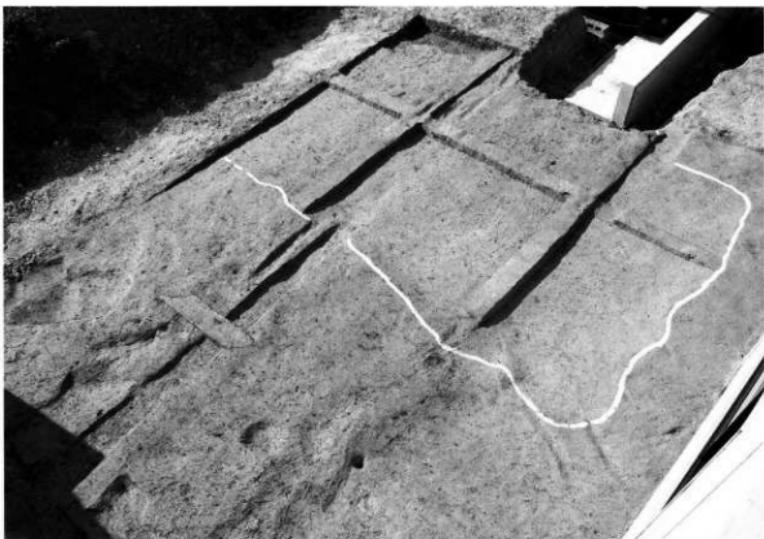
1 (第9図1)



2 (第9図2)

(2) その他出土遺物 (重機掘削後精査時)

図版7 桜塚古墳群第11次調査



(1) 調査区全景（北東から）



(2) 古墳周溝全景（北から）

図版 8 桜塚古墳群第 11 次調査



(1) 古墳周溝断面（南西から）



(2) 調査区基本層序（東壁面）

図版9 桜塚古墳群第11次調査 出土遺物



(1) 周溝出土埴輪（左：外面、右：内面）



(2) 採集埴輪（左：外面、右：内面）

報告書抄録

ふりがな	とよなかし　まいぞうぶんかざい　はくつちょうさ　がいよう					
書名	豊中市埋文化財発掘調査概要 平成22年度(2010年度)					
シリーズ名	豊中市文化財調査報告					
シリーズ番号	第64集					
編著者	陣内高志・浅田尚子					
編集機関	豊中市教育委員会(市町村コード27208)					
所在地	〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3丁目1-1 TEL06-6858-2581					
発行年月日	平成23年(2011年)3月31日					
所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
新免遺跡 第63次	玉井町2丁目 213-3	34°47'07"	135°27'36"	20091130～ 20091225	66m ²	個人住宅建築
桜塚古墳群 第11次	南桜塚1丁目 222-4の一部	34°46'14"	135°28'20"	20101126～ 20101203	22m ²	個人住宅建築

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新免遺跡 第63次	集落跡・古墳	弥生・古墳	竪穴住居	弥生土器 土師器・須恵器	弥生後期・古墳後期の 集落関連遺構を検出。
桜塚古墳群 第11次	古墳	古墳	古墳周溝	埴輪	古墳周溝を検出。

豊中市文化財報告 第 64 集
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要
平成 22 年度（2010 年度）
発行：豊中市教育委員会
豊中市中桜塚 3 丁目 1-1
平成 23 年（2011 年）3 月 31 日
印刷：(株)きたがわぶりんと

